



〒987-0511 登米市迫町佐沼字袋向150-1

0220-22-8029 (相談専用 22-8125)

FAX22-9114 37 平成24年 1月31日

## 第2回運営委員会



1月27日に、教育研究所の運営委員会が行われた。運営委員長の登米中学校の武田校長先生は、開会の挨拶の中で、身近な所で研修ができること、遠いと足が遠のきがち、気軽に研修が受けられるという点から研究所を評価していただいた。

片倉教育長は、市の教育振興に重要な役割を果たしている研究所であり、他地域には無い価値ある存在であること。委員の皆様以外の方々にも、その存在を知らせていただきたい。新学習指導要領は震災以前のものであるから、

復興のための課題が表面化され、各学校では、どんな教育課程を組むのかが大きくなる。と挨拶した。

その後、23年度の事業実施報告、各研究部の進捗状況についての報告があり、協議へと進んでいった。特に24年度の方向性について、委員の方々から様々なご意見をいただいた。

・登教研では、予算の関係で、児童生徒対象行事に視点をあて、講演会は無しの方向に進んでいる。その点からも、研究所に期待したいもの。

・受講者が喜んで帰って来た。来年度も、講師対象研修をお願いしたい。

・登米市には、震災のために多くの児童生徒が転入している。それらに対応できる研修も入れたいもの。

・「志教育」に関する研修会も入ってくるだろう。

・小中との接続、保幼小がうまくつながるための研修も必要。等々出された。

常に考えていたスクラップアンドビルドが大きく頭の中に広がった。それに、何を最優先させるのか、その為には、何を新しく立ち上げ、何を休むのか、あるいはスクラップするのか。研究所の予算もあることだし。その点を学校教育課の方針の下に組み立てていかなければならない。なにしろ、学校教育課が研究所の大元だからである。各学校が、教育委員会の指導方針を待って経営を組み立てるよう。



2011年11月11日に市内の某所で撮影したものである。道路沿いにある何本かの木に花をつけた桜。気が付いたのは十数年前。毎年時期になると気になって見に行く。「今年も来てくれたの?」とでも言ってるような気がする。車は通過していく。カメラを向けると「何を撮っているんだ?」という表情で見えていくドライバーもいる。

きっとその後ここを徐行して通り、存在に気づいたことだろう。そして、喜んだことだろう。